



1班 (2-21)



2班 (22-30)



3班 (31-38)



4班 (39-47)



5班 (48-57)



6班 (58-74)



みえ学生防災
啓発サポーター
(75-88)

学校防災ボランティア事業 成果報告会



令和4年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

1班

班メンバー

リーダー

山口冬人

伊勢まなび高校 2年

サブリーダー

石垣茅愛

紀南高校 2年

メンバー

伊藤秀

津工業高校 2年

山中涼加

名張高校 2年

中井美衣奈

皇學館高校 1年

平井里佳

高田高校 1年

発表テーマ（伝えたいこと）

各小学校の対応の違いを
見比べる

大川小学校



1班





1日 14時46分からの 11.3.11 Okawa Elementary School

14:46 The earthquake occurred the maximum seismic intensity of 6-upper in Ishinomaki City.
Instructions were given such as to hide under a desk for protection. Then the students evacuated to the schoolyard.

When the students were going to the schoolyard, some teachers told them that they were going to the mountain. Some students started running towards the mountain through the path beside the gym, but they were called back to the schoolyard to line up in order by grade. Teachers made a roll call. They also checked the main school building to make sure that no students were left behind. After the roll call, the students lined up facing to the school building. A radio was placed on the podium (stage on the right 1).

Students who were on their way home returned to the school. By just before 15:00, students and teachers had finished evacuating to the schoolyard. Guardians who came to pick the children up and some local residents also gathered in the schoolyard.

14:52 A siren on the disaster management radio communication network sounded, and a major tsunami warning was broadcast (2). The siren sounded only at this time.
"A major tsunami warning has just been issued to the coast of Miyagi Prefecture. I repeat. A major tsunami warning has just been issued to the coast of Miyagi Prefecture. Do not get close to the coast or levees of rivers. I repeat..."

The school bus going in the direction of Nagatsuma and Onosaki turned around in front of the lobby so that the bus could depart at any time, and waited for the school to give instructions (3). The bus company encouraged the driver to evacuate via radio.

15:00 Guardians who came to pick children up around 15:00 heard the information "In-high tsunami" on the radio in a car, and told the teachers to run to the mountain.
Some students heard, "A tsunami is coming," and "A major tsunami warning. Evacuate to higher ground." Some students were wondering if where they were was considered to be "the coast." Some students said, "We'll be fine," "I won't die in a place like this," and "I'll be head for the mountain."

Around 15:10 An announcement came via the disaster management radio communication network, "Currently, a major tsunami warning is ongoing. I repeat. Currently, a major tsunami warning is ongoing. Do not get close to the coast or levees of rivers. I repeat..."

15:25-15:30 A broadcast car from Kawakita-Sogo Branch Office of Ishinomaki City passed the school while repeatedly broadcasting a notification that the tsunami had passed the pine forest and urging people to evacuate to higher ground (4).

Out of the students who evacuated to the schoolyard, 27 of them were picked up by their guardians by around 15:30.

Around 15:32 The tsunami overflowed the levees.
It is assumed that driftwood and debris accumulated at the bridge of the Fuji River near the triangle zone (5). The tsunami overflowed all at once a few minutes later.

15:36 Students and teachers began evacuating from the narrow street beside the bicycle shed to the triangle zone (6). Senior students led the line, but the line was in disorder, and all grades were in dismay. Under the instructions of the teachers, students passed through a parking lot of Kamaya Communication Center and headed for the triangle zone in a line on foot, but they encountered a dead end (7).

The tsunami had already overflowed the river, and water was shooting out from the gutters.

Around 15:37 During evacuation, students and teachers encountered the tsunami from the river side. The tsunami reached the school.
After the tsunami came from the overflowed river, the tsunami that came from the land also reached the school. Each tsunami struck the mountain and created a torrent in the schoolyard.



1班

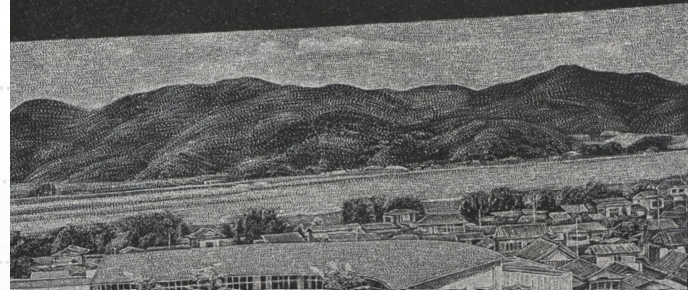
アッセンブリ
天井が高く外
Assembly hall
An open space

校歌「未来をひらく」



作詞 富田 博
作曲 曾我 道雄

一 風がおる 北上川の
青い空 ふるさとの空
さくら咲く 日本の子ども
胸をはれ 大川小学生
みがく知恵 明るい心



未来を拓く

明日(未来)へ

たくさんの方がここを訪れ
想いを寄せてくれます

たくさんの人に支えられ
今があります

空が世界をひとつにつなぐように
人が人をつないでくれることを知りました

どうか ここが
みなさんの明日へとつながる
きっかけとなりますように

門脇小学校



1 班



1班





こうしや だつしやつ
校舎からの脱出

The people who had evacuated to the school used the classroom podiums and escaped from here to the hill behind the school.



脱出に使われた教壇
出典 消防庁の調査報告書

津波大災が迫るなか、学校に残った教職員と住民たちは、教室に残っていた教壇を橋にすることを思い立ち、校舎から裏山へと避難することができました。こうしたとっさの判断が命を救ったのです。

教壇を橋にして 校舎2階から日和山へ

校舎に避難していた人たちは、校舎2階の窓から外に出て、裏山に逃れようとした。しかし、校舎と裏山の間には崖が横たわり、少し距離がありました。そこで教職員が教壇を橋にすることを思い立ち、避難を始めました。お年寄りでも歩きやすく、震でずぶたないように教壇を裏返して毛布を敷くと、輪転を利かせ、校舎の中に入ったすべての人が脱出できました。



2階の教壇をかけた橋

教壇をはしごにして 体育館から日和山へ

当時、体育館にいた避難者も脱出ルートを探し始めました。そして校舎の裏側を通って裏山への登り口を探していたところ、校舎の2階から裏山に落ちてあった教壇を見つけました。「あれをはしごのように使えばこの斜面を登れる。」避難者たちは教壇を下におろして崖に立てかけて登り、脱出することができました。



体育館から裏山へ登るための橋



請戸小学校



1班







提案

●災害が起きる前にマニュアルを作成し、常に確認する

●災害と向き合う

今後の自分達の目標

- 石垣茅愛 : 今現在、復興がどこまで進んでいるのかを色々な方に知ってもらう
- 平井里佳 : 次世代に災害について伝える
- 伊藤秀 : 学んだことを、身近な人に共有したい。
- 中井美衣奈 : 見てきたことや経験したことを多くの人に伝えて犠牲者を少しでも減らすこと
- 山中涼加 : 友達や家族・地域の人達にしっかりと伝えていきたい
- 山口冬人 : いろいろなところで発表して助かる人・命を少しでも増やす

令和4年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

班メンバー

リーダー

福島 潤

津工業高校

サブリーダー

有竹 紗璃

四日市高校

メンバー

中村 優太 四日市西高校

山本 楓莉

松阪高校

亀石 沙來

紀南高校

【発表テーマ】

テーマ 1

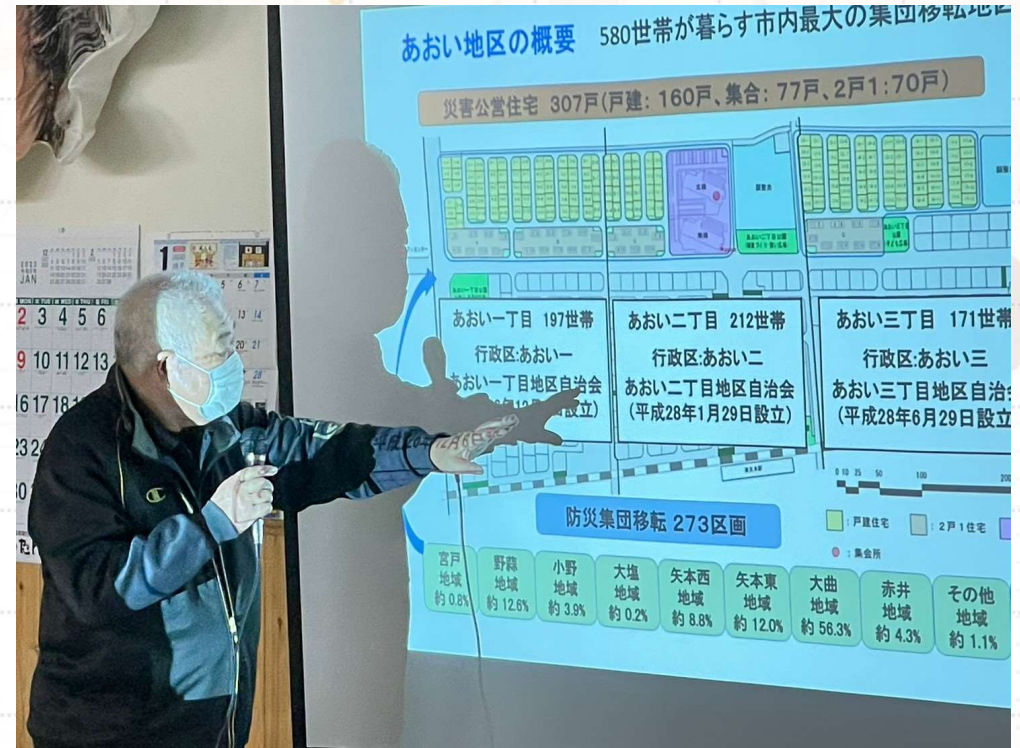
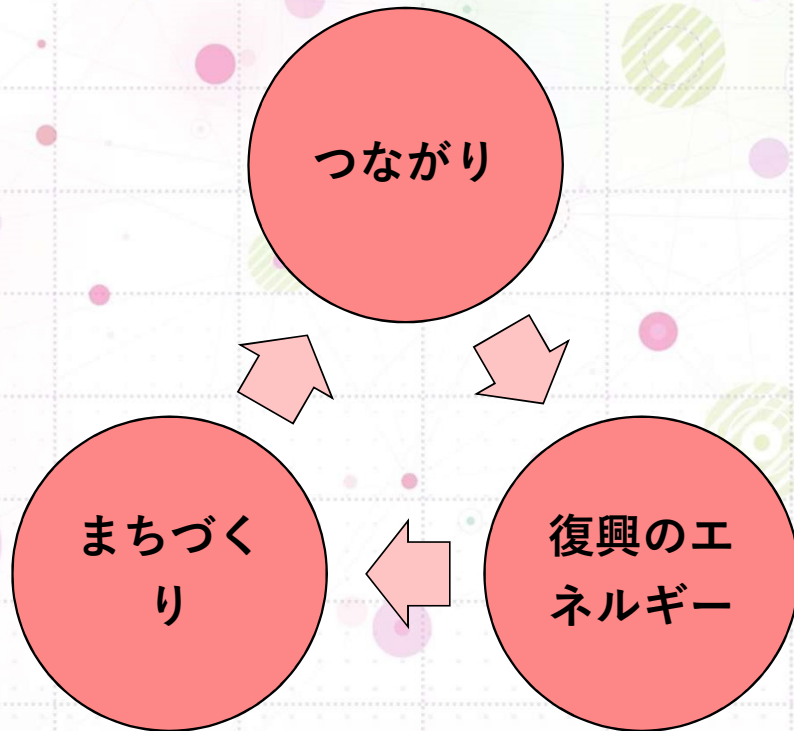
人と人とのつながりの大切さ

テーマ 2

災害に対しての意識の持ち方

テーマ1 人と人とのつながりの大切さ

＜あおい地区でのボランティア活動＞
復興のための人と人とのつながりの大切さ



＜まとめ＞ 災害が起きる前から地域の人とつながりを持つ大切さ

テーマ2 災害に対しての意識の持ち方

< あおい地区の独居高齢者の方のお話 >



二階なら大丈夫

息子さんの避難指示

山へ避難

助かった

テーマ2 災害に対しての意識の持ち方

大川小学校

2班



震災前



震災後

<まとめ> 「自分は大丈夫」という先入観をもたないこと

【伝えたいこと】

- ・ 災害が起きる前から地域の人とつながりを持つことは大切
- ・ 「自分は大丈夫」という先入観をもたない

私たちが若い世代にできることはたくさんある！

【今後の自分達の目標】

福島 : 災害時、心理的に混乱している人を助けられるようになる

有竹 : 人と人との繋がり・協力を大切にしたい

中村 : 災害に対して先入観を持たないように伝えていきたい

山本 : 地域の一員として防災に関する情報を発信

亀石 : 普段から人と人との繋がりを大事にする

ご静聴ありがとうございました

令和4年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

班メンバー

リーダー
サブリーダー
メンバー

上ノ町	友哉	(宇治山田)
宮部	仙士	(四日市)
別所	陽音	(津工業)
早川	周	(川越)
西野	もも	(昂学園)
田中	絆愛	(紀南)



テーマ

一人の行動がみんなの行動へと繋がる

～請戸小学校と大川小学校を比べる～

大川小学校

- 当時の状況
- 語り部の佐藤さんの話
- 話を聞いて思ったこと



請戸小学校

- 当時の状況
- 大川小学校と異なる所



現地を訪問して感じたこと

予測不可能な事態



普段から様々なことを想定して
備える事の必要性を感じた

提案したい事、伝えたい事

一人一人の行動が生死を分ける
一人の発言を無駄にしない

今後の自分達の目標

- 上ノ町 災害が起きたときに自分から率先し避難へ導く。
- 宮部 身の周りの災害に対する備えを見直し、
地域全体で防災知識を高める。
- 別所 多くの人を少しでも救えるように貢献する。
- 早川 学校のマニュアルを確認すると共に自分で考えて行動し、
災害時でも行動できるようになる。
- 西野 地域との関わりを見直し、
災害時に協力し合えるような環境を築く。
- 田中 学校の避難マニュアルが適切か確認し、
避難場所へのルート確認をする。

令和4年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

班メンバー

リーダー

サブリーダー

メンバー

安田弦生

治田優花

加藤勇杜

二見新汰

檜作和香

中野真菜

津工業高校

高田高校

津高校

宇治山田

高校

紀南高校

四日市高校

発表テーマ

『つながりと力』

三重との意外な繋がり

あさか開成高校の荒 義紀教頭
先生による講話



災害公営住宅のあおい地区（東松島市）

ボランティアに向かう様子→



震災後の大川小学校

災害以降の大川小学校→



←語り部の佐藤 敏郎さん

知識と経験は違う！
と感じました。

人にできないことはないと感じた
現地の人達は、震災当時の自分達
ではなく、今の自分たちを見てほ
しいと言っていました！

今後の自分達の目標

安田：災害時に重宝する機械を開発する

治田：趣味を通じて人々に伝える

加藤：自分の得意分野で人を助ける

二見：自分以外にも手を差し伸べられるように

檜作：高齢者の方の避難の支援を考える

中野：何か起きた時のことを常に考えて生活する

令和4年度
学校防災ボランティア事業
成果報告

5班

リーダー
サブリーダー
メンバー

田口竣一
秋田真穂
松本和華
堀口心愛
丸山真之介

四日市高校
名張高校
セントヨゼフ女子学園高校
紀南高校
宇治山田高校

テーマ〜〜伝えたいこと〜〜

震災後の人々について考える

～伝えたいこと～震災後の人々について考える

相馬高校、あさか開成高校との交流



～伝えたいこと～震災後の人々について考える 涌谷高校との交流



～伝えたいこと～震災後の人々について考える

5班

あおい地区での交流



～伝えたいこと～震災後の人々について考える

現地での経験等から感じたこと

災害後は、年齢や住む地域に関係なく、
いろいろな人の、温かい繋がりがあった
と感じた。

～伝えたいこと～震災後の人々について考える

～提案したいこと～

- ・事前に防寒具や食料の備蓄をしておく
- ・高校生と地域が連携した防災の取り組みを行う

～伝えたいこと～震災後の人々について考える

今後の自分たちの目標

田口⇒身近な人を守るために学んだことを実践・発信する

秋田⇒周りの人自身を守るために防災のついて話していく

松本⇒学んだことを伝え学校で行われている対策を把握し
より良い対応を目指す

堀口⇒実際に学んだことを発信して大きな災害に備える

丸山⇒学んだことを伝え、防災について一緒に考える等行
動を起こす

～伝えたいこと～震災後の人々について考える

5班

ご清聴ありがとうございました

令和4年度
学校防災ボランティア事業
成果報告

班メンバー

○リーダー

池山 愛理 伊勢まなび高校

○サブリーダー

高堀 真央 高田高校

○メンバー

因 千寿 いなべ総合学園高校
判野 優貴 四日市高校
横辻 胡々乃 紀南高校
宮口 真緒 セントヨゼフ女子学園高校

01
発表テーマ

～災害即応力をみにつける～

- 1 福島を襲った原子力発電
- 2 あおい地区での経験
- 3 大川小学校で学んだこと

発表テーマ

災害即応力を身につける

福島を襲った原子力発電所

6班

東日本大震災・原子力災害伝承館
The Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum

0058





6班



あおい地区の人たちの経験

6班

ボランティアと交流の様子



6班

大川小学校で学んだこと



6班





今後の自分達の目標

防災学習で学んだことを周りに伝える

みえ学生防災啓発サポーター - みえ まもりたい - について



発表者

小林永佳 （鈴鹿中等教育学校・高校1年）

稲生百恵 （鈴鹿中等教育学校・高校1年）

落合 海吏 （四日市大学 1年）

豊田 さゆり（社会人）

森 和真 （社会人）



- 1 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- について
- 2 防災キャンプと災害ボランティア
- 3 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- 活動方針

1 みえ学生防災啓発サポーター

-みえ まもりたい- について

みえ まもりたい の役割

- ・ **若者の防災意識向上**



YouTube



- ・ **他の若者を巻き込んで地域の防災活動を支援**



1 みえ学生防災啓発サポーター

-みえ まもりたい- について

養成講座カリキュラム

	開催日	開催場所	講座内容 (予定)	
必修1	6月19日(日)	三重大学	基本講座	開講式&「みえ学生防災啓発サポーター」について みえの防災文化づくり HJIB(避難所運営ゲーム) SNS等を使った防災情報発信講座
選択1	7月24日(日)	三重県消防学校	消防救助訓練実習	三重県の消防・消防団について 消防救助訓練実習 防災キャンプの企画・検討
	8月9日(火)~10日(水) (1泊2日)	鈴鹿サーキットキャンプ場	防災キャンプ	防災レシピコンテスト受賞レシピの吹き出し みえ防災コーディネーターの活動紹介 受講者企画のイベント BBQ ポリ袋炊飯
選択2	10月29日(土)	四日市大学	災害ボランティア事前学習会	近年の主な自然災害 地震・津波による災害 気象災害・風水害 行政の災害対策と危機管理 災害ボランティアの説明 災害医療とこころのケア 被害想定・ハザードマップと避難
	11月25日(金)~27日(日) (11/25夜出発)	宮城県東松島市	災害ボランティア	地震・津波への備え(現地での講義) ボランティア活動、被災地の視察 復旧・復興と被災者支援(現地での講義) 避難所の設置と運営協力(現地での講義) 災害ボランティア活動(現地での講義) 自主防災活動と地区防災計画(現地での講義) 防災士に期待される活動(現地での講義)
必修2	12月10日(土)	三重大学	若者世代に向けた防災啓発のあり方について検討	普遍救命講習 学生YouTuberの事例紹介 若者世代への防災啓発の在り方ワークショップ 今後の「みえ学生防災啓発サポーター」の活動について 修了式

- 三重県内の学校に通う大学、短期大学、専門学生、高校生等
- 三重県に在住する29歳以下
で構成

認定者 49名



- 1 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- について
- 2 防災キャンプと災害ボランティア
- 3 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- 活動方針

2 防災キャンプ

- ▶ 日時 令和4年8月9日～10日
- ▶ 場所 鈴鹿サーキットキャンプ場
- ▶ 防災キャンプとは

みえまもりたいの企画した防災キャンプに、小学生のお子さんのいるご家族を参加者として募集し、参加者に防災の知識を学んでもらうとともに、みえまもりたい自身も企画を通じて防災を学ぶ。



2 防災キャンプ

主な内容

- ▶ みえ防災コーディネーターの皆さんによる災害時に役立つグッズ紹介
- ▶ 津気象台の皆さんによる講義と実験
- ▶ 非常食（アルファ化米）の試食会
- ▶ みえ まもりたい 企画
 - ・ろ過器作成ゲーム
 - ・防災クイズ
 - ・○×クイズ



2 防災キャンプ

ろ過器作成ゲーム

目的

参加者の皆さんに楽しんでもらいながら、実際のろ過器作成を通して水の大切さを学んでもらう

内容

- ・ キャンプ場内に材料を隠し、参加者が探す
- ・ その材料でろ過器を作成
- ・ 実際にろ過をする
- ・ 実際に透明度を比べる



2 災害ボランティア

日程

令和4年11月25日～27日 (2泊3日)

場所

宮城県 東松島市 石巻市

概要

- ・石巻市震災遺構 「大川小学校」 視察
- ・東松島市 あおい地区 「講話・足浴・お茶会ボランティア」
- ・元宮城県石巻西高校校長 齋藤 幸男氏による講話



2 災害ボランティア

石巻市震災遺構「大川小学校」



2 災害ボランティア

東松島市あおい地区災害ボランティア

足浴



交流会・講話



2 災害ボランティア

元宮城県石巻西高校校長 齋藤 幸男氏による講義
in防災体験型宿泊施設「KIBOTCHA」





- 1 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- について
- 2 防災キャンプと災害ボランティア
- 3 みえ学生防災啓発サポーター
-みえ まもりたい- 活動方針

3 みえ学生防災啓発サポーター

- みえまもりたい- 今後の活動方針

- ・ 若者の防災意識向上



- ・ 他の若者を巻き込んで地域の防災活動を支援

